

株主のみなさまへ

# TOWA REPORT

第57期 平成24年4月1日～平成24年9月30日  
第2四半期事業のご報告



## CONTENTS

ごあいさつ	1
TOWA NEWS DIGEST	2
業績の概要	3
東和薬品の製品開発	5
連結財務諸表(要約)	7
中期経営計画主要課題推進レポート	9
会社の概況と株式の状況	10



東和薬品株式会社



代表取締役社長  
吉田 逸郎

## 業績は当初計画通り、順調に推移。 引き続き、中期経営計画の主要課題への取り組みを 着実に進めてまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第57期第2四半期の事業のご報告（平成24年4月1日から平成24年9月30日）をお手元にお届けいたします。

当第2四半期の業績につきましては、4月の診療報酬改定で後発医薬品調剤体制加算の再見直しが行なわれ、薬局向けの売上が拡大した結果、売上は2年前と同様の状況となりました。すなわち、4月の売上は計画を大きく上回って推移したものの、ほどなくその影響も一巡し、5月以降はほぼ当初計画通り順調に推移しました。

下期につきましては、一般名処方拡大や国立大学附属病院でのジェネリック医薬品の使用推進策など、さらなる市場拡大が期待できる要素もあります。しかしながら、短期的な業績に一喜一憂することなく、安定供給体制の

向上などの中期経営計画の主要課題への取り組みを着実に推進していくことで、本格的なジェネリック医薬品の時代に備えた中長期的な社内体制を充実させることがなによりも重要であると考えております。

第2四半期末の配当金につきましては、連結当期純利益も数年来順調に推移していることを踏まえ、株主の皆様のご支援にお応えするため、当初計画どおり37.50円（配当性向23.5%）と致しました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきたいと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

### ●● 業界の動向

「後発医薬品の数量シェアを30%以上にする」という政府目標の今年度未達成に向け、4月の診療報酬改定で後発医薬品調剤体制加算の再見直しが行なわれました。いまのところ、2年前の見直しと同程度のジェネリック医薬品市場拡大の効果が出ています。また、来年度以降の新たな数値目標に関する議論も始まっています。一方、今後のさらなる市場拡大を見込んで、新薬メーカーなどが新たにジェネリック医薬品市場へ参入したことで、企業間の競争が活発化しています。

## 西日本物流センターが完成

昨年より建設を進めていた西日本物流センターが6月26日に竣工。10月から、山形工場に隣接する東日本物流センターとの「東西物流2拠点体制」が始まりました。今後は、両物流センターに全製品を保管、1つの物流センターからまとめて製品を出荷するため、物流の効率化が図られます。



## 学会・セミナー共催

日本臨床腫瘍薬学会スタートアップセミナー2012東京でランチョンセミナーを共催(6月30日)、第19回末病・エニグマ症例検討会の共催(9月14日)、第35回日本高血圧学会総会で企業展示ブースの出展(9月20~22日)などを行いました。



# TOWA NEWS DIGEST



この半期の主な取り組みと新製品をご紹介します。

## 本冊子『認知症の人の声に耳を傾ける』の制作協力をいたしました。

全国に約400万人と推定されている認知症の分野で、「私達は人々の健康に貢献します」「私達はこころの笑顔大切にします」という当社の企業理念に沿った社会貢献活動ができないかと考え、患者支援団体の方にお話をお伺いしたところ、平成22年度老人保健健康増進等事業で行われた報告書に集められた認知症の方々の貴重な声や埋もれているということをお聞きしました。その埋もれてしまった声を広く社会に伝えるべく、本冊子『認知

症の人の声に耳を傾ける』の制作協力をいたしました。今後も患者さんの立場に立った、すべての方々から喜ばれ、求められる企業を目指した社会貢献活動を行っていきたいと思います。



## 営業所の新設・移転

徳島(4月9日)、札幌(6月1日)、青森(6月4日)、秋田(7月1日)、厚木・横浜南(9月3日)を新規開設し、合計50営業所体制となりました。また、江東(6月4日)、板橋(8月6日)、山形・北九州(9月10日)

を移転いたしました。

※移転に伴い、江東営業所は東京東営業所、板橋営業所は東京北営業所と改称。併せて東京23区内の営業所を名称変更(世田谷営業所は東京南営業所、練馬営業所は東京西営業所)いたしました。

## 薬価基準追補品収載 12成分24品目を新発売

精神神経用薬である「パロキセチン製剤」初の口腔内崩壊錠(OD錠)、アルツハイマー型認知症治療薬である「ドネペジル製剤」の新しい剤形である内用液などを発売しました。(6月22日)



## 山形工場が 本格稼働を開始

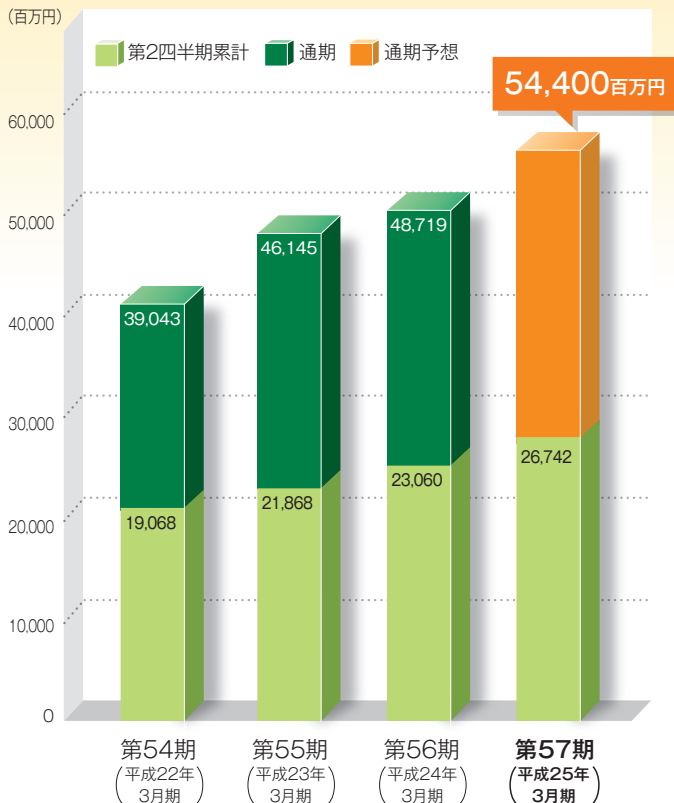
4月27日、国際標準に準拠した山形工場が稼働を開始(製品を出荷)いたしました。これにより、大阪工場・岡山工場とあわせて75億錠の生産が可能となり、当社が目指す売上1,000億円超に対応した生産体制を確立いたしました。



# 業績の概要

## 業績ハイライト(連結)

### 売上高



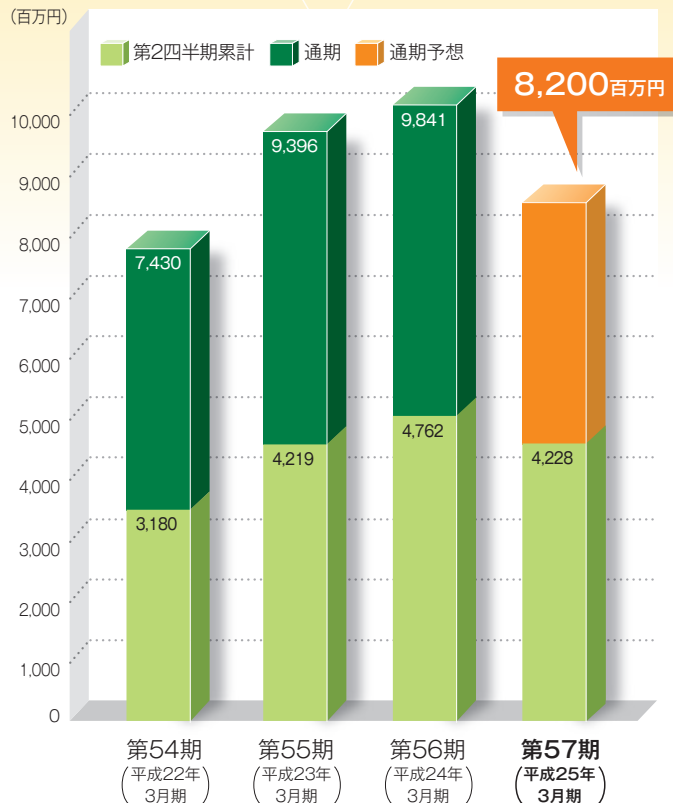
POINT

1

### 売上高

当第2四半期連結累計期間の売上は、26,742百万円(前年同期比16%増)となり、ほぼ連結業績予想(26,200百万円)通り、順調に進捗いたしました。製品別ではアトルバスタチン錠、ドネペジル錠・OD錠など平成23年に発売した新製品が売上増に寄与しました。

### 経常利益



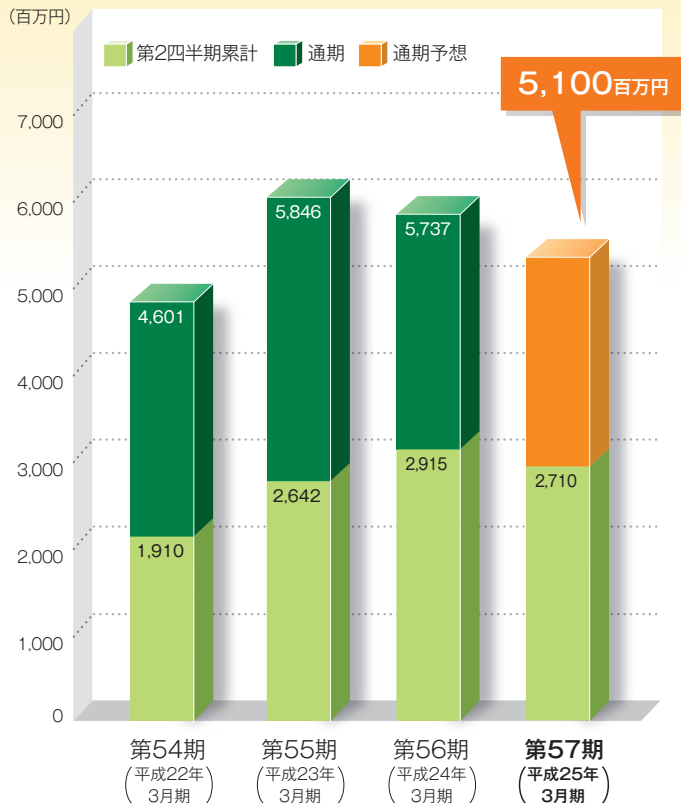
POINT

2

### 経常利益・四半期純利益

当第2四半期連結累計期間の経常利益は4,228百万円(前年同期比11.2%減)となりました。コスト面で、山形工場の稼働により、減価償却費が増加し、原価率が上昇しました。また、営業所の新設や、東日本物流センターの稼働など、安定供給体制の拡充に伴う費用の増加などにより販売管理費が増加いたしました。

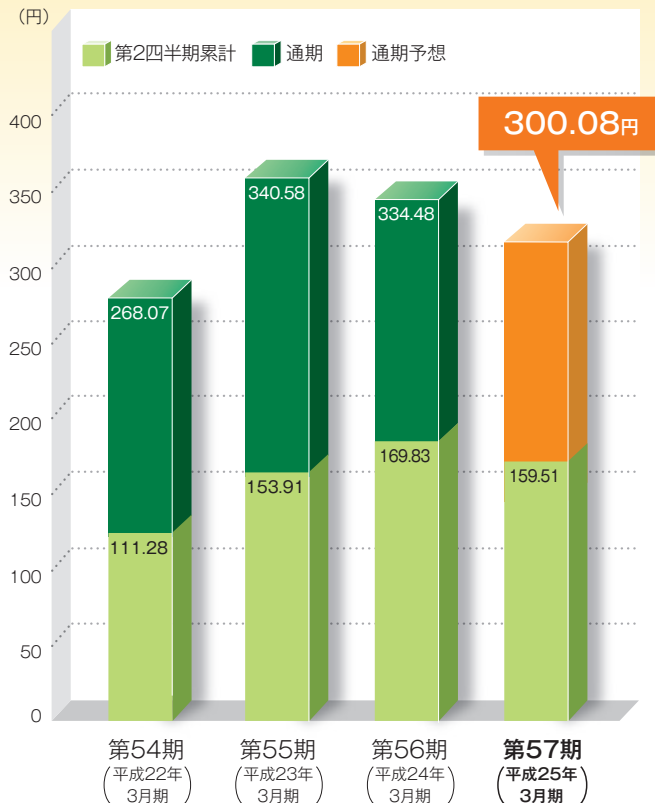
## 四半期純利益



た。連結業績予想(3,450百万円)との比較では、778百万円の増益となります。

また第2四半期連結累計期間の四半期純利益は、2,710百万円(前年同期比7.0%減)となりました。連結業績予想(2,150百万円)との比較では560百万円の増益となります。

## 1株当たり四半期純利益



**通期の見通し** 当第2四半期の業績は、平成24年5月14日に公表した計画を、売上、利益とも上回るペースで推移しているものの、下期にかけて山形工場の減価償却費が増加することで通期におきましては、ほぼ当初計画通りになるものと見込んでおります。平成25年3月期連結業績予想(通期)は、公表計画の通り、売上54,400百万円、経常利益8,200百万円、当期純利益5,100百万円を予定しています。

ジェネリック医薬品の  
付加価値を追求する

# 東和薬品の 製品開発

東和薬品の製品の核ともいえる付加価値製剤。  
その代表的な口腔内崩壊錠（OD錠）の製造を支える  
RACTAB技術を中心に、製品開発への取り組みや  
今後の方針について、研究開発本部長と  
製剤技術センター長に伺いました。



常務取締役  
製剤技術センター共同管掌  
研究開発本部長

大澤 孝

## 付加価値を追求し、 製品総合力No.1の製品づくりへ。

東和薬品は、優れたジェネリック医薬品を通じて  
人々の健康に貢献することを使命と考えておりま  
す。今期中期経営計画に基づき、全社を挙げて信  
頼性のさらなる向上を目指し、「製品総合力No.1の  
製品づくり」に取り組んでいます。

開発品目の詳細な分析や市場の要求調査に基づ  
き、「当社の代表的な技術であるOD錠のRACTAB  
技術の活用拡大」や、「医療過誤を起こしにくく見や  
すい表示」、「利便性の高い包装の工夫」などの付加  
価値を追求した、患者さんや医療関係者に選ばれる  
製品を企画・立案して、新製品の開発を進めます。

また、「製品総合力No.1の製品づくり」を達成す  
るための全社の体制づくりを推進しています。既存  
品を顧客の視点と現在求められる品質基準で見直  
し、改良点を明らかにした企画を提案します。これら  
の企画を現実のものに造り込む新しい技術部門であ  
る製剤技術センターの体制も整いました。

顧客のみならず安心して使用いただける製品づ  
くりこそが、東和薬品の次の飛躍への中核をなすと  
考えております。

## 研究開発と製造技術を融合させた新組織で。

製剤技術センターは、研究所と工場技術課を統合した新組織です。それぞれが培ってきた技術を融合することによって、研究から生産までを一気通貫した製剤開発を目指しています。これによって、患者さんをはじめ医療関係者の方々によるこんで服薬および調剤いただける、より高品質な付加価値製剤を安定生産のもとご提供することが可能となります。

当社の代表的な製剤技術であるRACTAB技術は、どのような薬物に対しても、高品質かつ調剤が簡単となるOD錠を製造できる技術です。この技術はこれまでに学会などで高く評価されてきました。またこの度は、「医薬品に高い機能性を付加する技術」のデザインとしても高く評価され、2012年度グッドデザイン賞に輝きました。

今後、ますますこのような付加価値技術の創出を継続し、新規追補品はもちろんのこと、将来にわたり医療に大きく寄与する医薬品についても、「製品総合力No.1の製品づくり」へと改良を重ねていき、顧客のみならず“こころの笑顔”をご提供したいと考えています。

## 医薬品の製剤技術として初めて RACTAB技術が 「2012年度グッドデザイン賞」を受賞



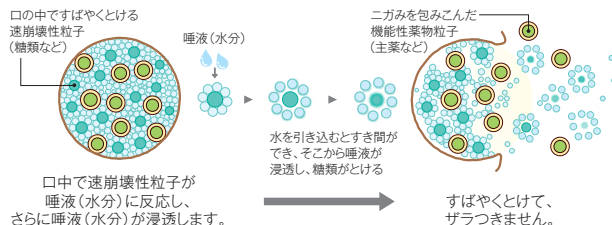
GOOD DESIGN  
AWARD 2012

RACTAB®

当社独自のRACTAB(ラクタブ)技術が、医薬品の製剤技術として初めて「2012年度グッドデザイン賞」を受賞しました。さらに、グッドデザイン特別賞候補として「ベスト100」にも選出。

RACTAB技術の、①子どもからお年寄りまで対応している②嚥下するスピードや薬物放出を自在に選択調整でき、汎用性が高い③薬物適応性が広く、高齢化が進む社会で特に必要とされる、といった3点が高く評価されました。今後も、この技術をさらに発展・確立させ、医療現場で貢献していきたいと思えます。

### RACTAB技術を用いた当社OD錠の崩壊イメージ



### グッドデザイン賞(Gマーク)とは…

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動。55年以上にわたり、デザインを通じて日本の産業や生活文化を向上させる運動として展開されています。

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成24年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成24年 9月30日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	4,217	4,158	△ 58
受取手形及び売掛金	16,467	16,079	△ 387
① 有価証券	2,081	3,500	1,418
たな卸資産	17,299	18,866	1,566
その他	2,306	1,976	△ 329
貸倒引当金	△ 126	△ 87	38
<b>流動資産合計</b>	<b>42,245</b>	<b>44,492</b>	<b>2,247</b>
<b>固定資産</b>			
建物及び構築物	19,230	20,530	1,300
土地	6,771	6,788	16
建設仮勘定	3,504	2,615	△ 888
その他	5,736	7,663	1,926
② 有形固定資産合計	35,242	37,597	2,354
無形固定資産合計	774	780	5
投資有価証券	1,811	1,731	△ 80
その他	1,266	1,670	404
貸倒引当金	△ 95	△ 91	4
投資その他の資産合計	2,981	3,310	328
<b>固定資産合計</b>	<b>38,998</b>	<b>41,688</b>	<b>2,689</b>
<b>資産合計</b>	<b>81,244</b>	<b>86,181</b>	<b>4,936</b>

POINT  
1

### 有価証券

有価証券残高は3,500百万円と前期末と比較し1,418百万円増加いたしました。余剰資金を、リスクの極めて少ない譲渡性預金により、一時的に運用しているものです。

POINT  
2

### 有形固定資産合計

有形固定資産は37,597百万円と前期末と比較し、2,354百万円増加いたしました。山形工場及び西日本物流センター等が完成し、稼働したことが主な要因です。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成24年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成24年 9月30日現在)	増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	6,473	6,925	452
未払法人税等	1,742	1,635	△ 107
その他	11,610	9,512	△ 2,098
<b>流動負債合計</b>	<b>19,826</b>	<b>18,072</b>	<b>△ 1,754</b>
<b>固定負債</b>			
③ 長期借入金	9,792	14,296	4,504
引当金	167	172	5
その他	963	999	35
<b>固定負債合計</b>	<b>10,923</b>	<b>15,467</b>	<b>4,544</b>
<b>負債合計</b>	<b>30,750</b>	<b>33,540</b>	<b>2,790</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	38,567	40,683	2,116
自己株式	△ 638	△ 638	△ 0
<b>株主資本合計</b>	<b>50,516</b>	<b>52,632</b>	<b>2,115</b>
その他有価証券評価差額金	△ 22	8	30
<b>純資産合計</b>	<b>50,494</b>	<b>52,640</b>	<b>2,146</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>81,244</b>	<b>86,181</b>	<b>4,936</b>

POINT  
3

### 長期借入金

長期借入金残高は14,296百万円と、前期末と比較し4,504百万円増加しています。山形工場の設備資金として6,500百万円の借入を実施いたしました。



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	増減
<b>4 売上高</b>	23,060	26,742	3,681
売上原価	10,412	12,747	2,335
売上総利益	12,648	13,995	1,346
<b>5 販売費及び一般管理費</b>	7,990	9,626	1,636
営業利益	4,658	4,368	△289
営業外収益	285	302	16
営業外費用	181	442	260
経常利益	4,762	4,228	△533
特別利益	—	6	6
特別損失	94	52	△41
税金等調整前当期純利益	4,667	4,182	△485
法人税等	1,752	1,471	△280
四半期純利益	2,915	2,710	△204

POINT  
4

### 売上高／売上原価／売上総利益

売上高は26,742百万円と前年同期比、16%の増収となりましたが、山形工場稼働に伴う減価償却費の計上により、原価率が上昇し、売上総利益は13,995百万円となり、売上総利益率が前年同期比2.5ポイント悪化いたしました。

POINT  
5

### 販売費及び一般管理費

営業所の新設や、東日本物流センターの稼働など、安定供給体制の拡充に伴う費用の増加などにより、販売費及び一般管理費が増加いたしました。

## 6 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,066	4,495	2,428
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,490	△10,827	△5,337
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,295	4,723	2,428
現金及び現金同等物に係る換算差額	△31	△31	△0
現金及び現金同等物の増減額	△1,159	△1,640	△480
現金及び現金同等物の期首残高	8,031	3,798	△4,232
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,871	2,158	△4,713

POINT  
6

### 連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較し1,640百万円減少し、2,158百万円となりました。

#### [営業活動によるキャッシュ・フロー]

税金等調整前四半期純利益4,182百万円等の収入がありましたが、法人税等の支払額1,649百万円、たな卸資産の増加1,566百万円等の支出があったため、差引4,495百万円の収入(前年同期比2,428百万円の収入増)となりました。

#### [投資活動によるキャッシュ・フロー]

有形固定資産の取得による支出7,198百万円、有価証券の取得による支出3,000百万円等があったため、10,827百万円の支出(前年同期比5,337百万円の支出増)となりました。

#### [財務活動によるキャッシュ・フロー]

長期借入れによる収入6,500百万円がありましたが、長期借入金の返済による支出1,178百万円等があったため、4,723百万円の収入(前年同期比2,428百万円の収入増)となりました。



(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 1 東和式 直販体制の 確立

営業所数が50カ所に。  
営業体制の拡充を着実に進めています。

営業所の新設は順調に進んでおり、第2四半期末現在で50営業所、今期末までには中期経営計画目標である55営業所に到達する見込みです。また、当社が目指す、「代理店」と「営業所」を2本柱とした直販体制が評価され、国立病院機構や労災病院などの基幹病院との取引も順調に増えています。



# 2 製品総合力 No.1の 製品づくり

製剤技術センターを新設。製品総合力No.1の  
製品づくりに向け、始動しました。

製品総合力No.1の製品づくりについては、まだ緒についたばかりです。

将来にわたって使い続けられると思われる製剤をリストアップする作業を進める一方で、市場の声を集約する仕組みや検討課題の洗い出しをする仕組みづくりを鋭意進めています。



# 3 安定 供給体制の 向上

山形工場、西日本物流センターが稼働。  
安定供給体制の強化を進めています。

生産面では、山形工場が稼働を開始。山形第一工場からの製造移管を順次進めています。

物流面においては、西日本物流センターが稼働し、東西物流2拠点体制で、災害時などでも全国配送可能なバックアップ体制が整いました。



東西物流センターの配送エリア

万一災害などで1つの物流センターが操業を停止した場合でも、もう1つの物流センターで補充可能なバックアップ体制を構築しています。

# 会社の概況と株式の状況 (平成24年9月30日現在)

## 会社概要

社名 東和薬品株式会社  
 本社 〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11  
 TEL (06) 6900-9100 (代表)  
 代表者 代表取締役社長 吉田 逸郎  
 創業 昭和26年6月  
 設立 昭和32年4月  
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)  
 資本金 47億1,770万円  
 事業内容 医療用医薬品の製造・販売  
 自社製品 573品目 (平成24年6月現在)  
 従業員数 1,592名 (平成24年10月1日現在)  
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 門真支店  
 みずほ銀行 守口支店  
 三菱UFJ信託銀行 大阪支店  
 日本政策投資銀行 関西支店  
 研究所 中央研究所 製剤研究所  
 工場 大阪工場 岡山工場 山形工場 山形第一工場  
 子会社 ジェイドルフ製薬株式会社 (医薬品の製造販売)  
 大地化成株式会社 (医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造)

## 株式の状況

発行可能株式総数 ..... 49,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 17,172,000株  
 1単元の株式数 ..... 100株  
 株主数 ..... 4,104名

## 大株主一覧 (上位10名)

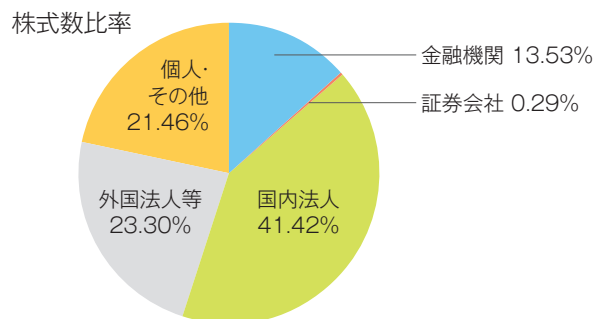
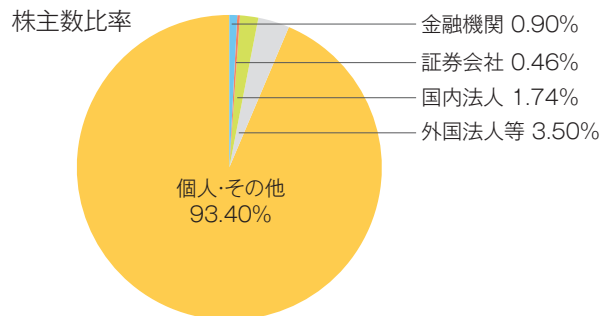
株主名	持株数	持株比率
(株) 吉田事務所	4,700千株	27.65%
(有) 吉田興産	2,000	11.76
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	511	3.01
吉田逸郎	485	2.85
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505044	456	2.68
ジェーピー・モルガン・チェース・バンク 385078	432	2.54
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	423	2.49
東和薬品共栄会	406	2.39
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	369	2.17
ピクテアアンドシーヨーロッパエスエー	356	2.09

## 取締役及び監査役

代表取締役社長 吉田 逸郎	常勤監査役 栗原 一夫
常務取締役 播磨 武	監査役 皆木 武久
常務取締役 大澤 孝	監査役 森野 實彦*
取締役 藤本 正義	監査役 辻 弘*
取締役 薮下 啓二	
取締役 西川 義明	
取締役 野口 豪	
取締役 猪熊 俊	

\*は会社法 第2条 第16号に定める  
社外監査役です。

## 株主分布状況



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月に開催
- 剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日
- 1単元の株式数 100株
- 公告掲載方法 電子公告によって行います。  
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

- 株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 〒541-8502  
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話:0120-094-777 (通話料無料)

### ◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

### ◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

### ◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

## 営業・販売拠点のご紹介

当社は、「東和式直販体制」の確立を目指し、営業所の新設や移転による販売流通網の整備を進めています。現在、代理店73カ所・営業所50カ所を拠点に、営業・販売活動を行っています(平成24年9月30日時点)。引き続き、営業体制の拡充・強化を図ってまいります。

